

第17回みちのくウイルス塾講演予告…聴講のツボ

1. 国立保健医療科学院生活環境研究部水管理研究領域主任研究官 **三浦尚之先生**：

「**ノロウイルスの水環境中動態：ヒトからカキへ**」：工学的視点から攻めるウイルス研究です。感染者が排出したノロウイルスの、下水からの検出濃度、遺伝子型の変動、下水処理プロセスでの除去、河川や海水中での存在状況、カキに蓄積されるメカニズム等、ノロウイルスの世界を幅の広くお話していただきます。

2. 東北大学大学院医学科微生物学分野准教授 **斉藤繭子先生**：「**フィールド分子疫学で知るノロウイルス**」
のたまわく”フィールド分子疫学で「知る」、「探る」、「暴く」、「わかる」” ノロウイルスのお話だそうです。

「三浦先生が日本の現状を話して下さると思うので、私の方では、海外ではという流れでペルーやフィリピンでわかった無症候性感染や家族内感染について話しをしてみたい」と、先生は意欲的におっしゃっています。

3. 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医微生物学教授 **堀本泰介先生**：「**D型インフルエンザ**」：

これまで、みちのく塾ではC型インフルエンザまでの講義はしてきました。最近、わかってきてインフルエンザウイルスの仲間入りをしたウイルスがあります。それがD型インフルエンザウイルスです。米国で報告があつて以来、世界中で、主に牛や豚で見ついています。もちろん、日本にもいました。その日本での研究の最先端を走るのが先生の教室です。現在のところ獣医学の領域ですが、ヒトとのかかわりはないのでしょうか？ そちらへんを先生にお訊きしてみるのもいいのでは？

4. 前東北大学大学院動物微生物学教授 **磯貝恵美子先生**：「**生体防御の必殺技…抗菌ペプチド**」

病原性微生物の感染に対する自然免疫の一つとして、細菌、植物、無脊椎動物、脊椎動物すべてが持っている抗菌ペプチド(AMP)という物質があります。立体構造に大きく依存するその活性は、先手必勝の防御システムとして機能し、細菌を即死させ、ウイルスや真菌にも効果を示すそうです。免疫系の活性化させ微生物の排除や炎症を抑制にも働きますが、それどころか抗がん効果もあるそうです。今、注目の薬剤候補のお話です。

5. 山形県衛生研究所長 **水田克巳先生**：「**Yamagata, Japan からウイルス感染症対策への貢献を目指して**」：

昨年の演者の小林先生のエンテロウイルス71(EV-71)の基礎研究のお仕事でも、先生の分離したウイルスが大活躍でした。今回、はそのEV-71の山形での疫学研究、そしてまだ世界で報告のない、パレコウイルス3型による流行性筋痛症・筋炎の流行を見つけた話をしてくれるそうです。…みちのくの地にしっかりと根を張りウイルスの疫学研究に邁進する先生の、まさに Act locally, think globally を体現しているお話です。

6. 東京理科大学理学部第一部教養学科教授 **武村 政春先生**：「**巨大ウイルスとは何者か**」

21世紀に入り、ウイルスのそれまでの一般的概念をはるかに超えた大きさの粒子そしてゲノムサイズを持つ「巨大ウイルス」が、世界中で見ついています。それらについては、「生物と非生物の境界に位置するのでは？」と考える理由があります。はたしてそれらの私たち生物との関わりは？ 先生の教室が分離した新種ウイルスの話も含め、最新の知見を紹介して下さるそうです。

ご注意 本年度のみちのくウイルス塾の会場は、都合により例年と会場が異なります。同じ病院内ですが、正面に向かって右端にある**メディカルトレーニングセンター**という建物の2階です。お間違え無いようお願いいたします。

なお、宿泊は例年通り、ウイルスセンターの入っている建物(地域研修センター)4階の宿泊施設です。

こちらについては、会場でご案内いたします。

(以上、文責 西村)